

令和元年度 第2回公民館運営審議会会議録

令和2年2月7日(金) 15:00~16:15
市川市生涯学習センター 3階 第2研修室

■出席者

審議会委員 小山勝 委員長、安川あい子 副委員長、伊与久剛史 副委員長
山本伸一、岩下裕昭、松丸洋輔、井上孝枝、遠藤淳子、福井茂子
(9名)

生涯学習部 笈川社会教育課長、清水社会教育課主幹、増田社会教育課主幹
信篤公民館長、東部公民館長、柏井公民館長、大野公民館長、若宮公民館長
西部公民館長、曾谷公民館長、行徳公民館長、本行徳公民館長、幸公民館長
南行徳公民館長、菅野公民館長

事務局 岩澤副主幹、高橋副主幹、高山主任、浮谷主任主事

■会議録

発言者	内 容
事務局 小山委員長	・市川市公民館の設置及び管理に関する条例に基づく会議成立の確認
社会教育課主幹	(1) 令和元年度公民館主催講座開催状況及び令和2年度公民館主催講座計画について(報告) 初めに、資料1「令和元年度 前期主催講座計画表」について。 前期は134件の講座を計画した。詳細内容については令和元年度第1回の審議会 会で説明済みのため、割愛させていただく。 続いて、資料2「令和元年度 後期主催講座計画表」について。 後期は前期より2割増加の、163講座を計画した。増加の理由としては2点。 1点目は、各館で年間予算が配分されるため、前期の計画を抑えて後期の企画に力 を入れるため。2点目は、前期計画は年度をまたぎ、人事異動に左右されるため企 画を抑える傾向にあるが、後期は企画から実施まで担当者が責任をもってできる ためである。 また、受講対象別分類では、前期講座同様 f.一般向け講座が全体の8割を超え、 学習内容別でみると1.教養の向上と2.体育・レクリエーション合わせて全体の7 割となりました。学習内容別では例年、1.教養の向上と2.体育・レクリエーショ ンに集中する傾向があるが、今年度は各分類をバランスよく計画するよう、運営 方針で示したこともあり、3.家庭教育・家庭生活が全体の18%を占めた。

次に、資料 3「令和元年度 年間主催講座計画表」について。

年間講座計画数は 297 件であった。当初目標 300 講座には届かなかったが、市民の学習意欲を刺激する講座が企画できたと思う。

受講対象別分類では、一般向け講座が 297 件中 236 件と全体の 8 割を占めている。女性向け講座は 33 件で全体の 11%、子供向け・親子向け講座が各 10 件で全体の 3%になった。本来であれば、対象を詳しく絞らない一般向け講座が望ましいが、あえて子ども向け講座や親子向け講座も企画している。

学習内容別分類について、1.教養の向上が最も多く、156 件で全体の 53%を占め、次に多い 3.家庭教育・家庭生活と合わせると全体の 7 割になる。最も計画数が少ないのは、イベント講座を除くと障がい者向け講座やボランティア養成などの講座が分類される 4.職業知識・社会連帯意識であった。

次に、資料 4「令和元年度 前期主催講座開催状況表」について。

前期の応募倍率は平均 1.9 倍であったが、当初予定していた定員を大幅に上回る講座もあった。講師や会場の都合がつけば、できる限り多くの方が受講できるよう受け入れ人数を増やす努力もしている。

続いて、資料 5「令和元年度 後期主催講座開催状況表」について。

前期より 28 講座増え、延べ受講者数も 89 人増加。しかしながら、単発講座が増えている傾向がある。講座の目的や内容、学習効果や継続学習へのステップを考慮し、開催回数を適切に設定するよう求めている。今後、開催日程や回数の設定をどうするかが課題となる。

次に、資料 6「令和元年度 年間主催講座開催状況表」について。

年間講座数は前年より 9 講座増えているが、回数・定員・応募者数・受講決定者数・延受講者数の全てが減少しており、これも単発講座の増加が影響していると考えられる。

学習内容別分類で見ると、1. 教養の向上、2. 体育・レクリエーション講座の割合が多いのは前年同様だが、3. 家庭教育・家庭生活が前年より 28 講座増え、53 講座開催し、昨年の 8.7%から 17.9%に増加。4. 職業知識・社会連帯意識は前年より 21 講座増え、30 講座開催し、昨年の 3.1%から 10.1%に増えたことに注目し、今年度の成果として報告する。

資料 7「令和 2 年度 前期主催講座計画表」について。

令和 2 年度前期講座は、前年より 4 講座多い全 138 講座を計画。

受講対象別では、子供向け 5 講座（前年比 2 増）、親子向け 4 講座（前年比 2 減）、女性向け 18 講座（前年比 2 増）、男性向け 2 講座（前年比 1 増）、高齢者向け 6 講座（前年比 3 増）、一般向け 103 講座（前年比 2 減）の予定。

学習内容別では、1.教養の向上が 68 講座、2.体育・レクリエーションが 21 講座、3.家庭教育・家庭生活が 30 講座、4.職業知識・社会連帯意識が 11 講座、5.地域交流イベントが 8 講座という内訳となった。

講座の傾向として、保育講座・夜間講座が共に 0 件。保育付き講座は昨年同様、保育者の確保が課題で、令和元年度も本行徳公民館で後期に 1 件の開催のみにとどまった。参加者からは、「保育付きじゃないと来られなかった。」「もっと保育付き講座があれば参加したい。」等の意見が寄せられ、需要はあると考えているが、新聞未購読世帯が増えている中で、新聞折込みが主となっている周知方法を工夫する必要があると考えている。また、夜間講座については公民館の人員配置にも課題があるので、講座数の拡大は難しい。

曜日別でみると、令和元年度前期計画に比べ土日開催の講座が 55 講座（前年比 10 増）で、全体の 4 割を占める。世代を問わず多くの方に学習の機会を提供するため、土日開催の講座を増やす努力を続けていく。

また、講座の共通テーマである「学校・地域との連携」をみると、全体の 42% にあたる 58 講座が、公民館サークルや地元で活躍する人材に講師を頼むなどの連携を行った。公民館は地域の学習拠点であることから、より一層地域に密着した講座を展開していきたい。

最後に、限られた予算の中でより多くの講座を実施するために謝礼金のかからない講師をお願いしている講座もある。内訳は表のとおり。

資料 8 i 「公民館講座情報誌以外で周知した講座」について。

公民館講座情報誌の発行時期と講座開催日が大幅にずれることであえて、紙面には載せず、広報いちかわ掲載等ほかの周知方法をとったもの、公民館周辺地域の方を対象にするためあえて載せなかったもの、または、今年度は講座情報誌の文字を大きくしたため、紙面に収まらなくなってしまったものの一覧。

資料 8 ii 「公民館後期主催講座 未終了講座一覧」について。

先ほど、資料 6 にて令和元年度年間主催講座開催状況を報告したが、後期末終了講座が 13 講座ある。この 13 講座分についてはデータが反映されていないので、次回令和 2 年度第 1 回公民館運営審議会で報告する。

ここで、具体的に 4 館の公民館長から報告をする。

信篤公民館長

信篤公民館は市内 16 公民館のなかで最も駅に近く、地下鉄東西線原木中山駅から徒歩 2 分、県道、旧成田街道に接しており、交通至便な位置にある。公民館の敷地内には、市民体育館、図書館が併設されており、19 台収容可能な駐車場がある。

意外と知られていない、信篤の名称の由来について。明治 20 年に高谷小学校と原木小学校の 2 つの学校が合併するとき名前で揉めた際、初代校長が仲介に入

り、中国の論語から「信」「篤」をとって地域をまとめて説得し、信篤尋常小学校が誕生。これ以降、田尻・高谷・原木二俣・の地域を信篤と呼ぶようになった。

信篤公民館開館は昭和 57 年で、信篤小学校の跡地に建設され、38 年が経過している。公民館の特徴として、利用者協議会と良好な関係があげられる。この利用者協議会に公民館運営の改善に様々な提案や意見をいただいている。会が特に力を発揮する公民館の文化祭で、地域との絆を深める場として、特別支援学校を含め、幼稚園から高校までの子供たちも参加し、毎年 4,000 人を越える地域の一大イベントになっている。利用者協議会の発案により、フリーマーケットやスタンプリューを行い、公民館に足を運びたいくなるような工夫を毎年行っている。

次に信篤公民館ならではの特徴的な講座を紹介したい。信篤公民館のそばに点在する農地約 1,500 平方メートルを毎年借り上げており、様々な講座をこの農地で行っている。親子の体験活動、食育講座、高齢者の仲間づくり、生きがい作りにつながる講座など、農作業や野菜栽培などを通して多くの学びが得られるよう工夫して講座を企画した。親子での農業体験を発展させて、大町の梨畑で春から夏まで特産の市川梨を親子で育てようという講座を組んだ。小学校 3 年生が総合学習で学ぶいちかわの梨に関する理解を深めてもらう講座で、大変好評だった。

また、公民館で借りた農地を活用して毎年芋煮会を行っている。地域交流の講座としてはいないが、手作りの交流会として地域の方に親しまれるイベントとなり、昨年は 250 人が集まった。地域の方と公民館利用者が交流を深める場になっている。

このほかにも、信篤地域の特徴を生かして、近くを流れる江戸川放水路の自然・歴史を学ぶことを目的にして、ハゼ釣りの講座を企画。地元漁協の協力で船を借り、夏休み期間中に親子で参加する講座。今年度に限っては、日頃釣りを体験する機会の少ない女性を対象にし、「ハゼ釣り女子会講座」を企画し、魚を釣るだけでなく、公民館の調理実習室で捌き方を学び、食べるまでを講座の中に組み込んだ。そのほかにも漁船に乗って海から地域の埋め立ての歴史や、土地がどのように利用されてきたか変遷を学ぶ講座も行っている。信篤公民館では地域の特徴を活かした講座も行っていて、今後も積極的に地域住民に PR し、魅力ある公民館にしていきたい。

大野公民館長

大野公民館は市川市北東部に位置し、JR 武蔵野線市川大野駅から南へ約 1.1 km、徒歩 13 分ほどのところにあり、1 階には大柏出張所や地域ケア、高齢者サポートセンターからなる複合施設となっている。この地域は昭和 53 年に JR 武蔵野線の開通、そして大野の土地活用事業の完成により急速に発展してきた。そのような中、昭和 56 年 9 月に本市で 9 番目の公民館として開館した。

令和元年度の主催講座の年間重点テーマを子供から高齢者の学びと健康を支援するとし、前期 9 件、後期 11 件の講座を計画・実施した。主なものとして、前期

に、おおむね 65 歳以上を対象にした「らくらく活性運動と簡単ゲーゴルゲーム」や、小学生の親子を対象にした「好きな曲でオルゴール作り」などの講座を実施した。後期は、「すぐに実践できる簡単発酵食基礎講座」や、今 NHK 大河ドラマ「麒麟が来る」で話題になっている明智光秀についての講座で「明智光秀 謎多き武将の実像に迫る」。また 2020 年から始まる小学校のプログラミングの必修化を目前に、少しでもプログラミングに関心を持ってもらうため、小学校 1 年から 3 年生の親子を対象に「もうすぐプログラミング開始」の講座を開催。特にこのプログラミング講座については当館に PC やインターネットなどの電子関係に精通している社会教育指導員がいることから、H29 年度の後期講座から自ら講師となり、小学 4 年から 6 年の親子を対象に PC を使用しての親子プログラミング講座を開催している。今年度は PC ではなく身近なスマートフォンやタブレットなどを使用した講座でまずはゲーム感覚でプログラミングに関心を持ってもらうことを目的に、小学低学年を対象に開催。回数も前回は 4 回だったが、今回は 2 回とし、さらに日程も午前と午後の 1 回ずつ 1 日での開催とした。定員を 8 名で募集をしたが、残念ながら 7 名しか集まらなかった。内訳は 1 年生 1 組、2 年生が 1 組、3 年生が 4 組、4 年生が 1 組で、男の子 4 名、女の子 3 名だった。講座ではプログラミングの考え方をゲーム感覚で学べるよう、プログラミングゼミというオンラインの無料ソフトを利用した。残念ながら、午前中のみ参加者もいた。講座を終えて受講生の感想は、「考えて入力した結果、正解のときが楽しかった。」「もっとプログラミングしたい」「プログラミングアプリを使ってもっとゲーム感覚で遊びたい」などの感想をもらった。受講生のレベルの設定は難しく、毎回担当者が苦勞しており、今後の課題である。子供たちはプログラミングにかなり関心を持っているので、来年度の必修化の中でどのように授業に取り組んでいくのか楽しみにしている。

若宮公民館長

若宮公民館は昭和 62 年に開設されてから約 32 年が経過し、施設の老朽化が進みところどころ改修工事している。規模は鉄筋工クリート造 2 階建て、貸室 6 室の他集会室、児童室から成り、延面積約 600 平方メートルと市内では 3 番目に小さい公民館である。立地は船橋市との市境に位置し、近くに中山競馬場があり、最寄りの京成線東中山駅から徒歩 15 分、若宮小学校バス停からも徒歩 10 分の距離に位置している。そのうえ、敷地内には駐車場がないという、利用者にとっては交通利便性が良いとは言えない状況である。しかしながら、このことが主に徒歩や自転車利用をする地元の方が多く利用できている状況になっている。地域交流という意味ではその機能を十分果たしているのではないかと思う。昨年落雷による停電があった際も、一日中電機が使えない状況があったが、地元の方が集まってお茶を飲んだり、軽い運動をしたり、談笑したりと利用していた。

通年の利用状況として、51 サークルの団体で約 670 名の登録があるが、子供対

象のサークルと高齢化が進んでいるサークルと、年齢層が両極に偏っている現状。

令和元年度の前期講座では、地域交流イベントとして中国の弦楽器二胡を使ったコンサートを企画したところ大変な人気を集めた。先着順であったことから、申し込み初日に数十人の列ができわずか 30 分で締め切りとなった。ちなみに参加された方はほとんどが若宮地区に在住の方で、地域交流としての目的が達成された。次に後期講座では、昨年多くの方が関心を集めた、即位礼正殿の儀にちなんで、平安貴族の衣装体験を企画したところ、当館ではあまり経験がない 1,5 倍という人気講座となった。女性は 12 単衣、男性は文官束帯の衣装体験をするもので、それぞれ一通りの着付けの学習をした後、全員に衣装を着てもらった。残念ながら男性の参加はなかったが、女性が男性衣装を体験するなど、参加者は大変満足な様子であった。本音は平安貴族の衣装体験というよりは、皇族気分を味わえたといったほうが味わえたといったところが大きいかもしれない。

今後の講座は、高齢化が進んでいく中で、地域住民との連携がますます重要になってくる。したがって、地域交流イベントをはじめ、時代のニーズにあったタイムリーな講座を取り入れ、地域との連携を密にしていきたい。

西部公民館長

西部公民館は昭和 49 年 11 月に開設し、昨年 10 月で開設から 45 年が経過した。公民館への主なアクセスは、市川駅または京成国府台駅からバスを利用しなければならないというアクセスの悪い公民館である。であるがゆえに、公民館の利用者は中国分、国分、国府台などの地元の方で、徒歩か自転車で来る方が 7 割。また地域密着である一方で、敷地が非常に広く駐車スペースに余裕があることから車で来る方も結構いる。地元か車利用の方が主な利用者層。

当館の施設として、貸室は体育館含めて 11 室、そのほか幼児向けミニプール、旧憩いの部屋であった集会室、また、併設施設として図書館、子供館、国分地区地域ケアシステムをそれぞれの部署が運営する複合施設となっている。次に当館の利用状況だが、本年 1 月末現在の当館への登録団体は 156 団体、登録者 2,489 人という状況。また利用者数は、30 年度の実績になるが、貸室以外の全施設を含めた延来館者数は 801,961 人で 1 日当たり 244 人。このうち体育館を含む 11 の貸室は年間延べ 3,514 団体が利用、一日当たり 10 団体の利用。年間 39,529 人で 1 日当たり 118 人。これらの数字を利用率から見ると午前 31,6%、午後が 21,2%、夜間が 9,4%、一日平均 19,9%と、残念ながら全 16 公民館での利用率は下のほうである。特に夜間の利用は、地域柄夕方以降ほとんど人通りのない地域なので、車で体育館を利用する人以外はほとんど利用がない状況である。このように低い利用率を改善していくためにも主催講座等で公民館を周知する取り組みが重要と考えている。

このような点を踏まえて、当館の主催講座の概要を説明する。まず本年度の年間テーマは、様々な分野の講座を企画し、市民の学習活動を支援するとした。こ

れは公民館の役割の基本として、より多くの市民に新たな学習活動等を始めてもらうきっかけを提供すること、そして公民館に通ってもらうことを目的としてテーマを設定した。このテーマに沿って、文化歴史、学習研究、イベントなど多くの住民が集えるような講座を前期に9講座、後期に10講座計画した。本日はこの中から「白樺派を学ぶ 手賀沼のほとり散策」と「クリスマスジャズイベント」の2講座を紹介する。

まず、「白樺派を学ぶ 手賀沼のほとり散策」について。前期に実施した「日常品の美 日本民芸運動を学ぼう」という講座と連動した講座。前期では、日本を代表する思想家で民芸運動を本格的に始動させた柳宗義や、市川市と関係の深い式場隆三郎などの活動を学び、目黒区にある日本民芸館などを視察した。後期の講座では、柳宗義が志賀直哉、武者小路実篤らとともに創刊した文芸雑誌「白樺」に焦点を当て、のちの民芸運動へとつながっていった白樺派について学び、手賀沼のほとりにある白樺文学館や、柳宗義の旧宅、志賀直哉の邸宅跡などを視察するという企画であった。前期後期の連動企画であるが、講師として依頼した白樺文学館の方が大学の講師もしており、話がたいへん分かりやすく面白かったこと、手賀沼のほとりには加納治五郎の邸宅跡や杉浦素人館記念館など、今回視察したところ以外にもいろいろな場所が見学施設として充実しており、後期のみ参加者にも満足できるものになっていたと思う。また、今回は市有バスを利用したが、白樺文学館などはアクセスが良くないので、参加者からは一人ではなかなか行けないからバスで連れて行ってもらうてよかったといった意見が多かった。

次に、クリスマスジャズライブについて。この講座はミーティアムガイドではなく、広報いちかわへの掲載と、地元自治会への回覧、自治会掲示板へのポスター掲示という方法で参加者を募集した。当初は参加者が集まるのかという懸念があったが、回覧等自治会に全面的に協力をいただき、50人の募集に対し、120人の応募があった。応募者を住所別にみると、56の方が地元の中国分自治会の方で、回覧、掲示板効果が非常に大きかったのかなと思う。西部公民館はもともと地元との結びつきが強く、自治会、老人会、婦人会など、地元関係者が多く来館しているが、地元の声かけ協力を求めることで、また新たなつながりができたと思う。それから、ほかに29人の応募者の方が国分地区の方で、合計85人と、申込者の3分の2以上が地元エリアの方であった。今回応募者多数のため抽選を行いました。当選者58人のうち44人が地元エリアの方で、多くの地域の方に公民館に来館いただき、公民館を知ってもらうというイベント開催の目的の1つを達成できたものと思う。

内容について。公民館から徒歩5分くらいのところにお住いのピアノ奏者の方をお願いして、その方のつながりで3人の方に来ていただいた。地元の方に出演していただいたということで、地域密着という目的も具現化できたと思う。平成30年度も地元のピアノ奏者をお願いしてコンサートを開催しているが、今後も地元の人材の活用に努めたい。また、コンサートは3人のプロによる高度な演奏と

<p>社会教育課主幹</p>	<p>絶妙なトークで会場は大変盛り上がっていた。曲目もクリスマスソングを交えながら、静かな曲、楽しい曲等多彩な演奏で、最後はホワイトクリスマスを参加者全員で合唱し、多くの方に楽しいひと時を過ごしていただき、満足していただいたと思う。</p>
<p>社会教育課担当</p>	<p>続いて、社会教育課主催の特別講座について、担当より報告する。</p> <p>資料9「特別講座 いちかわまるごと大人塾 の開催報告」について。</p> <p>社会教育課の特別講座は、公民館で企画しにくいもの、今回でいうと開催期間を長く設定した複数回講座、かつ行政の考える市川市を見せるということのポイントとして企画した。また、開催にあたり自分たちの住む市川市の魅力を再発見し、市への愛着を深めてもらうことを大きな目標とした。</p> <p>市川市は北部・中心部・南部でそれぞれ異なる特徴を有しており、それぞれの地勢、地域の歴史、文化財、伝統行事や市内一次産業について、多角的な視点から市内の魅力をPRし、また、行政が考えるこれからの市川市について学んでもらいたいと考え、行政が抱える課題についての説明を各担当課にしてもらった。</p> <p>講座の形態としては、実際に足を運び自分の住む地域だけでなく市全体を知る機会となるよう館外講座とした。</p> <p>総合案内人を、信篤公民館長にお願いし、講師は全体を通して市内の観光案内をボランティアで担っている「いちかわ案内人の会」にお願いした。そのほか、第1回は文化振興課、法連寺ご住職様、新七農園様、殿台梨選果場組合長、第2回は産業振興課、第3回は臨海整備課、行徳まちづくり協議会、中台神輿製作所、行徳漁業協同組合に協力いただいた。</p> <p>応募状況は、男性18名、女性29名、計47名。受講決定者数は男性7名、女性13名。受講延人数56名で出席率93%でした。</p> <p>受講者からのアンケートでは、「とても工夫されていて、たくさん勉強できた。また開催してほしい。」「これからの市川市が楽しみになる講座だった。」「疑問に思っていたことを説明していただき、解消できてよかった。」「開催の季節が春秋などちょうどいい時期だとなおよかった。」「まだまだ市川市の魅力はあると思うので、是非第2弾を開催してほしい。」「知らなかった市川市が知れて、愛着が深まった。」「行政の話がとてもよかった。」「総合案内人の解説がとても面白かった。同じ講師の講座があればまた参加したい」との声が聞かれ、私どもが目指した意図は受講者に届いたものと思う。</p>
<p>社会教育課主幹</p>	<p>資料10「障がい者アンケートの結果について」</p> <p>平成30年6月に第3期教育振興基本計画の中で障がい者の生涯学習の推進が閣議決定されたことを受け、本市でも、第3期市川市教育振興基本計画のなかで、</p>

	<p>「学校卒業後における障がい者の学びの支援」が施策の一つとして打ち出され、公民館の活用が主な事業として掲げられた。これを受け、市内通所施設に通う障がい者の方を対象に、ニーズ調査を行った。対象者は市内通所施設 35 事業所に通所している 1,345 名で、有効回答数は 927 名。</p> <p>「趣味等も含めて現在、学校卒業後も続けていることがある」との問いに、778 名（約 84%）の方が「はい」と回答。「学習の機会があれば参加したいか」との問いに 656 名（約 70%）の方が「はい」と回答している結果となった。</p> <p>また、どのような分野にニーズがあるのかを把握するため、具体例を提示し、複数回答可で調査した結果が下の表の「興味のある分野について」。</p> <p>最もニーズが高いものが、「音楽を聴く・演奏をする」で 552 人、2 番目が「スポーツ・レクリエーション」で 377 人、3 番目が「趣味に関すること」で 356 人となり、余暇を楽しむニーズが多くあった。</p> <p>公民館は、皆さんに楽しんでいただく講座の企画も得意としているので、単純に障がい者向けの講座を増やすのではなく、現在の趣味教養講座の中で障害をお持ちの方にも参加していただけるような仕組みや、支援体制をどのように整えればよいか、どのように学校や保護者の理解と協力を得て公民館の主催講座に参加いただけるかなど、各公民館の意見も踏まえて考えていきたい。</p>
小山委員長	<p>ただいま説明がありました令和元年度公民館主催講座の開催状況および令和 2 年度公民館主催講座計画について、意見や質問があれば挙手願う。</p>
伊与久副委員長	<p>資料 10「障がい者アンケートの結果」について伺いたい。</p> <p>これは、現在学校に通っている方々に行ったアンケートということでしょうか。</p>
社会教育課主幹	<p>いえ、学校を卒業して通所施設に通っている方に対して行ったものです。</p>
伊与久副委員長	<p>通所施設に通っている方すなわち、学校卒業者という認識でよいか。</p>
社会教育課主幹	<p>そうです。</p>
小山委員長	<p>各館がそれぞれ特徴のある活動を行っているのがわかった。公民館文化祭に伺うと、なお特徴が表れていると思う。</p> <p>他に意見がなければ、次の議題に進みたい。</p>
社会教育課主幹	<p>議題(2)資料 1「令和元年度公民館施設の工事・修繕について」</p> <p>今回ご報告する件数は、いずれも令和 2 年 1 月 31 日現在のもの。</p>

	<p>本市の公民館の多くは開館から 30 年以上経過しており、施設の老朽化が進んでいる。このため、当課では短期・中期計画を策定し、改修工事及び施設修繕を計画的に実施している。また、空調・電気・水道等の突発的な不具合も多く発生しており、その都度小破修繕していく。</p> <p>令和元年度の改修工事については、①東部公民館冷暖房機改修工事、②柏井公民館入口新設工事、③本行徳公民館昇降機改修工事、④本行徳公民館屋上防水及び外壁改修工事・本行徳公民館駐車場及び出入口整備工事の、4 件です。</p> <p>令和元年度の施設修繕について。幸公民館では駐車場を整備し、利用者の荷物の搬入搬出等を円滑にできるようにした。若宮公民館では壁面クロス張替を実施し、利用者の快適な学習環境を確保するよう努めた。幸・曾谷・若宮の 3 公民館では、高圧交流気中負荷開閉器の交換修繕、高圧ケーブルの新規配線接続および既設配線撤去を行い、電気に係る安全性を確保した。さらに、毎年度順次実施している畳表替えは、信篤・市川・曾谷で実施し、トイレ洋式化は、柏井・若宮公民館女子各 1 基を洋式に取り替える等、25 件の計画修繕を実施した。</p> <p>最後に、その他突発的な小破修繕は 87 件実施しており、そのうち数例を紹介する。南行徳公民館において非常用放送設備修繕を実施。これは設備が故障したもので、法令遵守のため急遽行ったもの。さらに、ここ数年恒常化している空調機の不具合による随時不良部品の交換等の修繕を、9 公民館 16 件行った。</p> <p>以上、利用者に快適な学習環境を提供できるよう努めた。</p>
小山委員長	意見・質問がありましたら、挙手を願う。
福井委員	本行徳公民館の改修工事の中にある、ポケットパークとは何か。
社会教育課主幹	現在、外壁に室外機を隠すための囲いがあるが、それをすべて取り払い、ベンチなどを置いてちょっとした休憩スペースを作った。それをポケットパークと呼ぶ。
井上委員	幸公民館の駐車場修繕とあるが、ほとんどない駐車場にどんな修繕をしたのか。
社会教育課主幹	もともと 2 台駐車スペースがあるが、原則公共交通機関を利用しての来館をお願いしているところである。ただ、足の不自由な利用者や大きな機材を使うような団体に配慮して、公民館前の公園スペースを所管課と相談し現在ある駐車スペースに加えて、一部駐車場として使えるようにした。
小山委員長	他になければ、本日の議題は以上とする。本日の会議全体を通して、委員から質問や連絡はあるか。

山本委員	<p>今年度市川駅南公民館の文化祭に伺った。公民館入るとまず、近隣の幼稚園、小学校、中学校の作品が飾られていたり、私立の高校の発表があったり、地域の子どもたちを巻き込んで色々なことをやっていただいて、ありがたいと思った。また、たまたま今回行った際、本校（鶴指小学校）でボランティアとして協力していただいている方々が公民館でも活動されていて、ご挨拶させていただく機会があったが、こうやって人と繋がっていくのだなと思った。本校は近隣ではないが、学校と公民館との連携はとても大切だと思った。</p> <p>私は、市川市ではないが近隣市の博物館での博学連携事業に十数年関わっている。そのなかで、リピーターを増やさなければならないという思いが非常に強く、リピーターが増えることで市の活性化につながると思う。そこで、子どもたち向けの講座をいろいろやっていてアンケートをとっていると思うが、子どもたちの声を伺いたい。</p>
社会教育課主幹	<p>例えば、曾谷公民館の「夏休みハッピーデー」講座では、小中学生の夏休みの体験学習と居場所づくり、仲間づくり、新たな発見や教養の向上を目指すことを目的に毎年様々な企画をしている。今年度はドローン体験、寅さん記念館見学、マネーゲームを行った。子どもたちからは、「初めての体験で楽しかった」「お小遣いゲームが楽しかった、またやりたい」等の声が聞かれた。</p>
事務局	<p>次回公民館運営審議会の開催は、日時が決まり次第連絡する。</p>

令和 2 年 2 月 20 日 (承認)

市川市公民館運営審議会委員長

小山 勝 印 